

気象情報を日頃から確認する習慣づけを



おおやま 哲男さん 室蘭地方気象台 観測予報管理官

昭和57年4月、気象庁に入庁し、旭川地方気象台に配属。気象庁予報課や稚内地方気象台などを経て、平成30年4月に室蘭地方気象台観測予報管理官に就任。

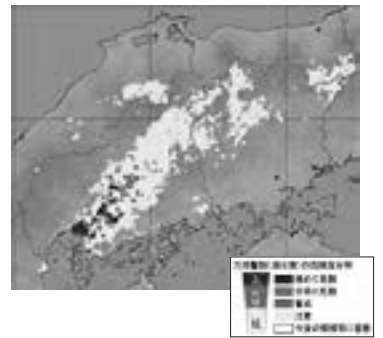
西は豊浦町、東はえりも町までの胆振総合振興局と日高振興局管内の気象や地震、津波などの観測、予報業務などを行っている室蘭地方気象台の大山哲男観測予報管理官に大雨などに対する日頃の備えについてお話を聞きました。

『平成30年7月豪雨』の際に気象庁は多くの地域に『特別警報』を発表しました。

『特別警報』は、予想される現象が特に異常で、重大な災害の起きる可能性が著しく大きいという場合に発表されるもので、東日本大震災における津波や平成23年台風第12号による大雨災害などの際に、重大な災害への警戒を呼び掛けた警報が必ずしも住民自らの迅速な避難行動に結びつかなかったことから、平成25年8月に創設されたものです。

今回の豪雨災害からも分かるとおり、特別警報が発表されたときには非常に危険な状況が差し迫っていることから、速やかに避難する必要があります。もちろん、特別警報が発表されていないからといって安心してはいけません。警報など、常に最新の気象情報に注意し、お住まいの市町村の指示に従うだけでなく、自主的に避難するなど、早め早めの行動をとることが大切です。

現在では、雨について、何^レ程度の降水量になるかまで予想できるのは、早くても24〜48時間前となりますが、気象庁のウェブサイトで、警報発表の可能性について、5日先まで地域ごとにお知らせしていますので、予定を立てる際に活用するなど、日頃から気象情報を意識して生活することも大切です。



▲7月6日20時時点の広島県や岡山県における大雨警報（浸水害）の危険度分布（平成30年7月13日付けで気象庁が公表した『災害をもたらし得た気象事例』より）

オロフレ山系の南東に位置する登別市においては、夏から秋にかけて、しばしば豪雨に見舞われることがあり、昭和58年9月25日に登別市で観測された24時間降水量509^ミは、全道のアメダス地点の中で1位の記録です。

日本においては、降水日数は減少傾向にあるものの、非常に激しい雨や大雨の頻度が増加傾向にあることをご存じですか。これまでに降ったことがないような大雨が日本各地で発生していますので、登別市にお住まいの方も日頃から大雨に備えていただく必要があります。

災害は私たちのまち『のぼりべつ』でも発生する

近年、東日本大震災など、想像をはるかに超える自然災害が日本各地で発生しています。各自自治体におけるハード整備はもちろん、個々の防災意識の向上が進んだ現在においても、『平成30年7月豪雨』では、多くの被害が発生しました。

元々、雨の多い登別市だからこそ、これまでにない規模の大雨が発生する可能性があり、『今まで大丈夫だったから、今回も大丈夫』という考えは危険です。

私たちが暮らす登別市の特性を知り、防災に関する確かな知識を身につけ、日頃から備えることで、災害による被害を最小限に食い止めることができます。9月には台風などにより、大雨がもたらされることが多くなります。

防災マップを見直しながら、今一度、お住まいの地域の状況を確認してみませんか。

▼問い合わせ
総務グループ
(☎851130)